

備考

1. 注射量(中隊)注射量(cc)に對する量トシテ計算セリ
2. 豫防注射液ハ開栓後速カニ變質スルヲ以テ一瓶ニテ部隊實施スル場合ニ相互協定シ一兩日ニテ終ル如ク細部ト前回注射要領ニ準ズ(石師獸第(五三號參照))
3. 空瓶(返納致ハ前回分ヲ令ス)ハ使用後直ニ師團獸醫部ニ返納ス
- モトメ本表外石師三五九部隊石師三五九部隊石師三五九四部隊等
- 五三五部隊ハ前回空瓶ヲ獸醫部ニ返納スモトス
4. 豫防液ハ五日ヨリ首里市赤田町獸醫部ニ於テ交付スルニ付成ルニ速カニ受領員(書類受領公用兵ニモ可)ヲ差出スモトス

第八號

部内會報

一月二十日(土) 里

一部内會報第七號第四項幕僚部位置「營内」ト見做スベキ
區域ニ左記ヲ加フ

左

記

1. 厩、通信所、並ニ東門ヨリ之ニ通ズル道路
2. 幕僚部入浴時間並ニ勤務兵差出區分ヲ左ノ通定ム

曜 日	火 曜	木 曜	土 曜	月 曜	水 曜	金 曜	日 曜
至 自 六 〇 〇 〇	至 自 一 七 〇 〇	至 自 一 八 〇 〇	至 自 一 九 〇 〇	至 自 一 九 〇 〇	至 自 一 九 〇 〇	至 自 一 九 〇 〇	至 自 一 九 〇 〇
下 士	參 謀 部	暗 號 部	通 信 所	副 官 部	醫 務 室	副 官 部	醫 務 室
混	參 謀 部	暗 號 部	浴	參 謀 部	暗 號 部	副 官 部	醫 務 室
勤 務 員 差 出 區 分	參 謀 部 ヨリ 兵 一 名 宛	暗 號 部 ヨリ 兵 一 名 宛	浴	參 謀 部	暗 號 部	副 官 部	醫 務 室
	ヨリ 兵 一 名 宛	ヨリ 兵 一 名 宛					

1. 浴場使用區分ハ東一個ハ將校用トシ北一個ハ下士官、兵用トス
2. 赤田町宿營部隊入浴ハ衛兵隊ニ於テ擔任スルモトス

三、幕僚訂慮令入浴場東側ニ塵捨場並ニ紙屑焼却場ヲ設置セルニ
 付各部隊ハ利用區分ヲ誤ラズル如ク使用スルト共ニ回收可能紙屑
 ハ昭和十九年十一月四日訂内會報第三項ニ基キ各部隊毎ニ管理班
 ニ送付セラレ度
 四、十一月四日不晨番村瀬上等兵(右四二八四)ハ其ノ服装態度共ニ嚴正ニシテ
 良好ナリ

一月二十一日	一師團長ハ獨立歩兵第十二大隊ニ於テ實施セラレタル故陸軍伍長
最高温度 一八度	松本道太郎以下三柱ノ慰靈祭ニ参列、爲一四二〇出發一六二歸
最低温度 二度	隊ス 篠中尉ハ隨行ス
命令	二別紙左記命令ヲ下達ス
慰靈祭	石兵團日日命令 第一七號
	訂内日日命令 第一〇號
	石兵團會報 第一四號
	訂内會報 第九號
空襲警報	三敵機動部隊本島ニ近接中ト情報ヲ受領ス
	一〇二五 丙號戰備(警戒)警報 下令
	二二〇 空襲警報 下令
	三、本島上空ニ侵入セル敵艦載機約二機ニヨリ約十五分間
	小祿飛行場附近ヲ爆撃、後東方ニ脱去ス
	四二二〇 空襲警報解除

原隊復歸	四管理班勤務ノ獨歩兵第七大隊古賀伍長八第六士師團
司令班勤務	ヲ免カレ原所屬ニ復歸ス
勤務	五部隊衛兵 高村伍長以下五名
人馬數	六本日ニ於ケル人馬數
人員	將校八 准上官二四 兵一三四
判官	一 備人四 計一六一
馬匹	日本馬一三

第二號

石兵團日日命令

一月二十五日 首里

一 副官部管理班勤務ノ第五九部隊陸軍伍長古賀喜利
 石第一八八三部隊勤務ヲ免ス
 明二十日朝食後原隊ニ復歸スベシ

配布先 關係部隊

第二〇號

部内日日命令

一月五日 式里

一 舊取扱者

陸軍大尉

首

沼波

實

新取扱者

陸軍中尉

篠

喜

頭書、通陸軍秘密書類取扱者交代服務スベシ

陸軍醫少佐

鶴

田

義

虎

業務指導、為本二十日即日歸隊、豫定ヲ以テ屋嘉部ニ出張ス

命ス

備人公仕

石

川

政

和

依願解備ス

第一四號

石兵團會報(在首里部隊)

一月二十日
首里

一在首里部隊、外出曰、左、通定△

曜日 外出部隊

日曜 石第一八八二部隊(幕僚部)

月曜 石第四二八三部隊

火曜 石第一八八二部隊(幕僚部)除各部隊

水曜 石第四二八三部隊(球第七七八部隊)

木曜 石第四二八三部隊

金曜 石第三五九九部隊

土曜 臨時指定部隊

配布先關係部隊

第九號

部内會報

一月三十一日

一 明三二日九〇〇ヨリ反記ニ依リ被服及同消耗品並ニ血兵品ヲ
交付スルニ付管理班ヨリ受領ノコト

左記

備考	品目				部班
	冬襦袢下	洗濯石鹼	冬襦袢	冬襦袢	
2. 冬物不足數ハ經理部ヨリ補給セラル場合支給ス (1) 印ハ衛兵勤務者用トス	29	8	13	13	部謀參
	7	4	3	3	班號陪
	23	5	7	7	部官副
	13	9	3	3	班理管
	29	15	40	40	部番兵
	30	18	50	50	部理經
	10	4	6	6	部醫軍
	9	2	4	4	部醫獸
	9	5	4	4	廠馬病
	18	8	6 (10)	6 (10)	隊兵衛
8	/	/	/	班給防	
8	2	/	/	所信通	
	印鑑持參	需用傳票持參		摘要	

一月五日 晴	最高 二〇度	最低 一四度	湿度 一四度	首 里	空襲 状況	損 害
<p>一昨日ヨリ引續キ警報或警報下ニ朝トテ ハ〇六三三空襲警報發令 司令部ハ豫メ區處ニテ所ニ從ヒ書類其他ヲ整理シ入 員ハ對空射撃部隊ヲ除ク全員掩蔽下ニ待避ス 二〇六四五本島上空ニ侵入セル敵機ハ最初小隊、中西兩飛行 場ヲ銳爆撃ス。本日來襲、敵機ハ艦載機ニシテ我軍ノ 後方輸送ヲ遮斷スル目的ナルモノ如ク約十時間ニ亘リ執拗 ニ而モ頻繁ニ來襲シ主トテ飛行場及港灣附近ニ對シテ銳 撃及爆撃ヲナス シニヒロ頃トシテ敵機ノ行動、夜ハ來リタリモ敵少數機ハ夜ニ入ルモ 尚執拗ニ來襲セリ 々來襲敵機主トテ艦載機延約七〇機 五二〇五〇空襲警報解除</p>					<p>二司令部對空射撃部隊ハ射耗彈ナシ</p>	

陸軍

對空處置
一、衛兵隊加藤曹長(肩部)大隊上等兵(石足)の高射砲、
破片創ヲ受テ多クニ整傷ニシテ行動ニ支障ナシ
三、司令部直轄對空監視哨衛兵隊山本軍曹以下五名ヲ配置ス
二、一九〇〇ヨリ約三時間兵舎附近偽裝作業ヲ實施ス
六、書類其他ハ掩蔽壕ニ收容監視兵ヲ附ス
六、爾余ハ武裝ヲ裝ヘテ室内ニ於テ待機假眠ス

勤 秀 四部隊衛兵 高村伍長以下五名
人馬數 五本日は於ケル人馬數
前日ニ同ジ

二月二十三日
一、師團長ハ隨時檢閲ノ爲メハ三〇出發獨り步兵第十五大隊
並ニ獨立歩兵第三大隊ニ到リ檢閲終了一八〇〇歸隊ス
原中佐ハ本檢閲ニ同行ス
令里 二別紙左記命令ヲ下達ス

隨時檢閲
石兵團日日命令第廿一號
却内日日命令第廿二號
却内會報 第一〇號

作 業
三各部隊ヨリノ作業勤務兵及衛兵隊荒井軍曹以下二〇名
ハ條中尉ノ指揮ニヨリ掩蔽訂増張作業ヲ實施ス
四中上軍曹ハ檢閱官助手トシテ山口軍曹以下六名乗馬五頭
ハ檢閲間行動ヲ共ニシ一八〇〇歸隊ス

精勤章 五衛兵隊勤務獨立歩兵第廿六隊村上一等兵ハ十五日附
兵精勤章ヲ附與セシ
勤 秀 六 勤 秀 副官 山本曹長

同	廻番下士官	梅田軍曹
訂隊衛兵	福西兵長	以下五名
人馬數	之本日於之	人馬數
人員	將校八	准士官二
	備人四	計一六
馬匹	日本馬	一三

第三號

石兵團日日命令

一月二十日六里

石第三五九部隊

陸軍上等兵 萩原正光

石第八八二部隊勤務將校傳令ヲ命ス
參謀部ニ於テ服務スベシ

配布先 關係部隊

第二一號

部内日日命令

一月二十三日六〇里

參謀部勤務

陸軍一等兵

中嶋晴造

衛兵隊勤務

同

村上昇

兵精勤章ヲ附與ス

陸軍少尉

矢守貞夫

至一月二十三日間週番士官鈴木少尉ト交代服務スベシ

陸軍曹長

山本要三

徵兵検査執行事務員ヲ命ス

依テ本二十三日沖繩聯隊區司令部ト到リ同司令官指揮ヲ受クシ

期間ハ二週間ト豫定ス

陸軍兵長

桂新一郎

業務連絡爲一月二十四日ヨリ二泊ノ豫定ヲ以テ漢名採炭隊ニ出張

命ス

第三號

部内日日命令



一月三日八日

陸軍少尉

鈴木敬一郎

陸軍伍長

森本政一

石第五三五部隊ニ入院ヲ命ス

陸軍上等兵

宮下吉男

鈴木少尉入院間付添トシテ石第五三五部隊ニ分遣ヲ命ス

第一〇號

部内會報

條

一月三十一日

里

- 一 空襲時ニ於ケル待避等ハ際ニ各部班毎ニ人員掛或ハ荷物掛等ヲ指名シ置キ行動ヲ整正ナラシムル如ク努ムルコト
- 二 各部班ハ待避書類ハ常時明確ニ區分シ置キ待避ニ於ケル際迅速整正ナラシムルコト
- 三 主日司令部一軍人會館間ニ於テ外出證第四〇號紛失等爾今無効トス

一月二十四日	最高一八度	最高一四度	司令里	行命事	對空	準備	
一別紙に記命令を下達ス	石兵團日日命令第一三號	部内日日命令第一三號	石兵團會報第一五號	二衛兵隊荒井軍曹以下二十八名司令部位置置掩蔽壕 構築作業ヲ實施ス	三石速報第一三號敵機動部隊ノ行動ニ鑑ミ時ニ明ニ吾 両度敵空襲ノ算大ナリノ情報ヲ一〇〇受領シ直チニ左 ノ如ク區處ス	ハ條中尉指揮ヨリ不用不急ノ書類ヲ儀保町待避壕ニ運 搬掩蔽ス	<p>二衛兵隊長長以下五名ノ衛兵ヲ儀保町待避壕ニ配置 監視ニ任ゼシム</p> <p>三入ロヨリ約一時間屋上及司令部附近ノ偽裝ヲ實施ス</p>

陸軍